

# 機関の再確認を！

5月に入り徐々に気温も上がって過ごしやすくなってきました。

暖くなるにしたがって、北海道では、海でのレジャーや漁業活動が活発になっていきます。

特に冬籠りしていた小型船舶は、発航前の点検を念入りに行いましょう。

発航前の点検を行っていても、各部の老朽磨耗等により機関に不具合が出る場合があります。

定期検査などの機会も利用し、普段点検できない箇所についても、専門業者へ依頼し、整備を行うとともに定期的に交換が必要なものは、予防的な交換を行う等の対策をとりましょう。

## 過去の機関故障原因から

バッテリーには寿命があります。年数が経ったものは、満充電だからと思っていると、バッテリーが上がる場合があります。

エンジン内部には、運転時間により交換が必要な部品があります。運転時間を把握して、早めに交換をしましょう。(クランクメタル、ピストンリング、冷却ポンプインペラ等)

ゴム製の部品は、機関室内の熱や振動により劣化が進む場合があります。亀裂や傷がないか、入念に点検しましょう。また、目視では劣化がわかりにくい場合もあるので、予防的交換も必要です。

燃料こし器に錆び等が混入していた場合、燃料タンク内が錆びている可能性があります。

## 先日もこのような事故が...

冷却水とともに排気に使用している排気管で機関と船体を繋いでいるゴム管が、劣化等により、締め付け金具部分から破断し、そこから浸水したため沈没へ至る事故が発生しています。

シーズン初出航前に整備していましたが、目視点検では劣化を発見出来なかったものです。



お問い合わせは **第一管区海上保安本部交通部**

電話 0134-27-0118 (内線2643,2644)

海の安全情報(スマホ) <http://www6.kaiho.mlit.go.jp/sp/index.html>



海難隻数及び海難による死者・  
行方不明者数(速報値)

4月	8隻、0人
平成29年累計	26隻、1人